

学生活動とも新たな協力関係を

京都大学では2万人にも及ぶ学生が様々な活動を行っています。
今回は、環境保全等に取り組む学生の皆さんに集まっていただき、
尾池総長と京都大学環境安全保健機構長の犬島教授、
環境保全センター酒井教授と意見を交換し、
今後の展開についても大いに盛り上がりました。

—— 京都大学における環境関連 講義・教育について、日ごろ、学 生の立場から感じていることは？

東江 環境に関する講義は少ないと感じます。また、他大学では環境活動やインターンなどで単位を認めもらえるシステムがあるのですが、そういうものも、京大ではあまりありません。

根本 私は、環境に関する講義をできる限り受講してみました。50科目くらいでしょうか。その中で感じたのは他学部聴講が非常にやりづらいことです。京大はキャンパスが一極集中していて、様々な学部の環境の講義を聴ける状況が整っており、ポテンシャルは感じるのですが、その状況が活かされていないという印象を持っています。

酒井 インターンは一部の大学院では行われており、当面はそうした組織の特徴あるプログラムとして運用されていくのでしょうか。他学部聴講は手続

きなどは相当の覚悟が必要かと思いません。まず、環境に関する教育は、研究や教育の基本であるとの合意が必要です。そうすれば、基礎科目として普及していく可能性もあると思います。

犬島 そうですね。最終的には1回生か2回生の必須科目を作りたいと思っています。また、根本さんのようにいろいろ授業に出ておられる方から、おもしろい授業を教えてもらえれば、全学への提供をお願いすることもできます。全学に提供できているのは、今は「環境安全学」などに限られるのですが、今後、増やしていきたいと考えています。環境というキーワードで講義を選ぶ方が増えていますので、その関心や興味を持続できるような講義が準備できればと思っています。

酒井 環境の講義を50もとられたのであれば、例えば環境サークルのメンバーで、採点基準のようなもの、さらには通知表のようなものができるん

じゃないですか？学生側から前向きなプレッシャーをかけてもらうことも意味のあることだと思います。

矢野 環境サークルに所属する学生の専門が必ずしも環境というわけではありません。ですが、だからこそ、いろいろな視点で議論できるかもしれませんね。

総長 そのときに、是非、各先生方が「環境」をどう定義しているか、調べてみてください。実に多くの使い方、捉え方があるはずですよ。そうしてから評価してみると、先生方の取り組み姿勢がわかって良いと思います。

酒井 講義の緊張感が一気に高まりそうですね！

—— 環境問題に関する学生活動 の可能性や問題点は？

矢野 私は特に学内のごみ問題に取り組んできたのですが、例えば西部構内では学生が引っ越しなどのごみを捨てて行くというようなことも起こっています。そういう問題に対して、学生の視点から問題提起・改善提案するといったように、学内には面白い活動フィールドがたくさんあると思います。ただ、興味のある学生は良いのですが、興味のない学生をどのように巻き込んでいくか、全体の底上げという大きな壁はありますが・・・。

犬島 学内の環境意識の底上げは、大学の取り組みも、学生活動も、共通の課題ですね。

矢野 他にも、新入生を迎える時期に





びらがどれくらい配られ、捨てられているかという調査も行っています。現在集計中ですが、1教室（250人）で1日にA4換算で4,000枚以上出ているようです。A4サイズだけで一日100種類以上!この数字自体が驚きですが、ともあれ、学生活動の可能性という意味では、そういう地道なデータの蓄積も一つの成果・役割ではないかと思えます。

大嵐 貴重なデータですね。実のところ、ほとんど皆さんの活動内容を知ることがありませんでしたが、環境報告書等にも協力・連携していただける部分がありそうですね。

根本 私たち自身、もっと活動や参加の輪を広げるために、団体間や大学との協力や連携を進めていくことが必要なのではないかと考えています。

大嵐 東江くんは京大生協環境委員会「E-COOP」で活動されているのですね。生協とえば、レジ袋を有料化するのですか？

東江 私たちは、すでに有料化を実施している千葉大学の見学にいったのですが、京大でも、できるのではないかと感想を持ちました。まだ、内部の温度差はあるのですが。

酒井 今年度の環境報告書で提示する2007年度実施計画においても「枯渇性資源由来の廃棄物対策としてレジ袋削減対策を講じる」という項目を挙げています。先見性をもって京大のやり方で進めていければいいと思います。私たちが研究として取り組んでいるのは、色のついたレジ袋です。あれ

<p>東江佳尚 あがりえよしなお ●文学部2回生</p>	<p>根本潤哉 ねもとじゅんや ●人間・環境学研究所修士1回生</p>	<p>矢野順也 やのじゅんや ●工学研究科修士1回生</p>	<p>尾池和夫 ●総長</p>
<p>京大生協環境委員会E-COOPに所属。リターンナブル弁当の販売促進やレジ袋削減、間伐材でできた割り箸の普及などに取り組んでいます。</p>	<p>環境サークルえこみっと、環境ネットワーク4Rの会OB。えこみっとでは新歓びら対策や学園祭の環境対策に取り組んできました。現在は学内の不用品をリサイクルするプロジェクトに取り組んでいます。</p>	<p>京都R、びっくり!エコ100選実行委員会及びえこみっと、リサイクル市所屬(一部OB)。京都ならではのエコなライフスタイル提案などに取り組んでいます。</p>	
			<p>大嵐幸一郎 ●環境安全保健機構長</p>
			<p>酒井伸一 ●環境保全センター教授</p>

を調べると約2割は鉛が入っていることがわかってきました。レジ袋の量を減らすことも大事ですが、その質にも注意を払う必要がありますね。中身も注意しようというメッセージを発すれば作る側にも伝わりますよ。

東江 有料化しているところではレジ袋の上質化という動きはあるようですね。有料化と同時により強度のある袋を導入しているところもあります。

酒井 レジ袋を使う場合でも使いまわしをできるようにということですね。

総長 京都大学の袋は世界中で格好いいといわれたいけないので、ひとこと言わせてください。「格好良いので、はやらせよう!」というものを京都大学のバッグとして作ってははどうでしょうか?先ほど話題になっていた鉛入りの袋なんかは格好悪いわけです。問題はデザインもさることながら質ですよ。日本でしかできない格好良い袋で、一生持っていようというようなものを、学会

のときにも配るとか、是非そういうことをやっていただきたいと思います。

東江 丈夫で何回も使えたら少しくらい高くても、みんなほしがると思います。

根本 格好よくて京大を感じられたら、なおさら。

総長 その開発費が必要でしたら、大学から出すことも考えます。

一同 おおおお!

総長 学生からも公募すればどうでしょうか?アイデアをもっている人が、みんなわーっと集まってブレインストーミングして、どんどん試作して、他人の意見をきいて、ね。そんなプロジェクトができるのではないのでしょうか。私は竹の繊維を使うのがいいと思っているんですけどね。タケノコが10本生えてきたら2本は食べて、8本は袋にする。どうでしょう?

一同 是非やりたいですね!楽しみになってきました。